

えとなっています。今日は私の経験をいくつか紹介し、支えとなる言葉を自分の中に蓄えることの意味をお伝えしたいと思います。

【本日のテーマに関連する聖書箇所】ヨハネによる福音書1章1-14節
1初めに言があった。言は神とともにあった。言は神であった。2この言は、初めに神と共にあった。3万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。4言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。5光は暗闇の中に輝いている。暗闇は光を理解しなかった。6神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。7彼は証しをするために来た。光について証しするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。8彼は光ではなく、光について証しするために来た。9その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。10言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。11言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。12しかし、言は自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。13この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。14言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝前後にオルガン前で練習しています。

【次回の大学礼拝】2018年7月3日（火）10時40分

今回の礼拝の奨励は朴美愛先生（日本基督教団野幌教会牧師・元本学キリスト教学教員）が担当してくださいます。ぜひご出席ください。

【次々回の大学礼拝】2018年7月10日（火）10時40分

次々回の礼拝には韓国 CCC が来てくれます。茶話会もあります。

【前々回の礼拝】

学生 302名 教職員ほか 13名 合計 315名

【前回の礼拝】

学生 338名 教職員ほか 8名 合計 346名

【大学礼拝週報】2018年度第11号前学期（第11号）

2018年6月26日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「高きにいます神にのみ栄光あれ」（J. C. バッハ作曲）
讃美歌 讃美歌452番（ただしく清くあらまし）
聖書 ローマの信徒への手紙5章1-5節
祈り
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「言葉の力：自分を育ててくれた言葉を考える」
堂地修（農食環境学群長）
報告
讃美歌 讃美歌二編23番（神ともにいまして）
後奏 「主よ、われらを汝のみ言葉のもとに保ちたまえ」
（ハーセ作曲）

【本日の聖書】ローマの信徒への手紙5章1-5節

1このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、2このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。3そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、4忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。5希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

【奨励者からのメッセージ】

人にはいくつになっても心に残る言葉というものがあると思います。私は、技術者として35年余りの日々の中で、先生や上司から話されたいくつかの言葉を今でもよく覚えています。ときには猛省をうながされたり、元気をいただいたり、冷静さを取り戻したり、新たな展開の機会をいただいたりして、さまざまなことを考えてきました。この経験は今でも私の支